



びすけっと

244号—2023年6月—

埼玉県立小児医療センター

血液・腫瘍科

親の会 びすけっと

もっとみなさんとつながれるように…

Instagram始めました！

https://www.instagram.com/biscuit_oyanokai/



新学期の疲れが出てくるころではないでしょうか。疲れたときは、しっかり栄養を摂って、しっかり休んで下さいね。子どもにとって、お母さんの笑顔が一番ですよ。

🌸がんの子どもを守る会関東支部オンライン講演会

「小児がん経験者のより良い未来のために、知っておきたい歯の話」

国立成育医療研究センター小児外科系専門診療部 小児歯科・矯正歯科 金沢英恵先生

3月4日(土)に表記の講演会が開催され参加しました。講演後の質疑応答の中で、治療中はたくさんの不安を抱えているため不安を助長しないように、治療が終わって少し落ち着いた頃歯科に関わる晩期合併症についてお話しされていると仰っていました。確かに治療中は歯への影響まで考えを巡らせることはできないかもしれません。

健康に生活していると思っていても、高齢になると普通に歯のトラブルは増えてしまいます。私は、出来れば一生口から食べ物を食べたいし、それが自分の歯なら尚良いと思います。歯の異常は栄養摂取だけでなく、美味しい物を食べることへの精神的な影響、顎の発育等による外見的な影響、発音への影響などもあるかもしれません。

ですから、子どもの頃の小児がんの治療によって将来どのような影響があるのかを知り、出来ることは予防して、トラブルが起きても早く気付いて対処出来るようにしておくのがいいのではないのでしょうか。

永久歯は赤ちゃんの時にすでにできはじめていて、歯が作られる時期と治療の時期が重なると、歯に影響が出るそうです。影響を与える治療は5歳未満の化学療法、放射線治療、造血幹細胞移植があります。可能性のある異常は歯の形成不全、矮小歯、歯並びや咬み合わせ、歯根短縮、歯の欠如などがあります。また、ドライマウスによって唾液の量が減り、虫歯になりやすくなったりします。慢性GVHDがあると、口腔がん発症のリスクも高まるそうです。

歯の形の問題は歯科治療の材料によって形を補う、歯根短縮の場合は矯正などで抜けやすくなることがあるので注意する、永久歯の欠如の場合は乳歯をできるだけもたせる(30代ぐらいまでもつこともあるそうです)、ドライマウスの場合は保湿ジェルを使用する、口腔がんの予防のために喫煙やアルコールの摂取には注意するなどで予防・改善できることがあるそうです。

遮蔽器具を使用して放射線治療の影響を少なくするための研究も始まっているそうです。

治療後は異常が無くても定期的に歯科を受診して、異常があった場合に早く気付いて対処することが大切ということでした。

(柳戸)

次回のびすけっとは、**7/11(火)11:00~**

相談室B(2F 総合受付奥)

※びすけっとの参加のためだけに病院に来られた場合、

- ・駐車料金は一般料金になりますので、病院外の駐車場をご利用することをおすすめします。
- ・入館時の健康チェックシートは、外来・面会用ではなく、来客・業者用をご使用ください。

※変更の場合があるため、
来る前にインスタや
LINEで確認してね。

びすけっと連絡先：代表 柳戸 民子

〒350-2224 鶴ヶ島市町屋112-5

TEL 049-271-4708 (留守電)

e-mail yanagido@t.zaq.jp

柳戸LINE、QRコード
ラインでのご連絡もOK!

